6　　の離れわざ 　　　 文法　動詞③　上一段・下一段活用

　　読解　人物像をつかむ

新傾向　人物像を読み深める

次の話は、に関する逸話である。

七、八人をならべさせて、にⓐ居たるより次第に肩を踏みて、をはきながらをられけり。その中に法師一人ありけるをば、肩より㋐やがてを踏みてられけり。かくすること一両終はりて、鞠をとりて、「①いかがおぼゆる」と問はれければ、「肩に御沓の当たりふとはおぼえ候はず。を手にゑたるほどにぞおぼえ候ひつる」とおのおの申しけり。法師はまた、「をⓑ着たるほどの心地にて候ひつるぞ」とぞ申しける。

また、父の卿に㋑して、寺にられたりける時、「舞台のを、沓はきながら、渡りつつ鞠を蹴ん」と思ふ心つきて、すなはち西より東へⓒ蹴て渡りけり。また立ち返り西へ返られければ、ⓓ見る者目を驚かし、②色を失ひけり。

語注

平笠＝かぶる部分の浅い笠。

舞台＝京都の清水寺にある舞台で、いわゆる「清水の舞台」のこと。切り立ったの上にあり、非常に高くて危険な場所である。

基本古語

おぼゆ（ヤ下二）＝感じられる。

【原文】

侍七、八人をならべ居させて、端に居たるより次第に肩を踏みて、沓をはきながら小鞠を蹴られけり。その中に法師一人ありけるをば、肩よりやがて頭を踏みて通られけり。かくすること一両反終はりて、鞠をとりて、「いかがおぼゆる」と問はれければ、「肩に御沓の当たり候ふとはおぼえ候はず。鷹を手に据ゑたるほどにぞおぼえ候ひつる」とおのおの申しけり。法師はまた、「平笠を着たるほどの心地にて候ひつるぞ」とぞ申しける。

また、父の卿に具して、清水寺に籠られたりける時、「舞台の高欄を、沓はきながら、渡りつつ鞠を蹴ん」と思ふ心つきて、すなはち西より東へ蹴て渡りけり。また立ち返り西へ返られければ、見る者目を驚かし、色を失ひけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

蹴鞠の名手である成通は、［　　　　］を蹴りながら、座らせた人々の［　　　］や［　　　］を踏んで通った。またあるときは、清水の舞台の［　　　　］を渡りながら［　　　］を蹴り、見ていた者を驚かせた。

問二　波線部㋐・㋑の意味を選べ。〈3点×2〉

㋐ア　そのまま　　イ　すぐさま　　ウ　とうとう　　エ　だんだん

〔　　　〕

㋑ア　挑戦して　　イ　頼み込んで　　ウ　連れ立って　　エ　逆らって

〔　　　〕

問三　［チェック問題］動詞③　上一段・下一段

二重線部ⓐ〜ⓓの動詞について、次の活用表を完成させよ。〈2点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ⓓ | ⓒ | ⓑ | ⓐ | 基本形 |
|  |  |  |  | 語幹 |
|  |  |  |  | 未然形 |
|  |  |  |  | 連用形 |
|  |  |  |  | 終止形 |
|  |  |  |  | 連体形 |
|  |  |  |  | 已然形 |
|  |  |  |  | 命令形 |
|  |  |  |  | 活用の行・種類 |

問四　傍線部①について、

1. 解釈として最も適当なものを選べ。〈4点〉

ア　どのような感じであったか　　イ　いつ習ったのか

ウ　何が見えたか　　　　　　　　エ　どのように覚えているのか

〔　　　〕

1. この成通の問いかけに対して、人々がえを用いて評している箇所を、本文中から十字以内で二つ抜き出せ。〈4点×2〉

・〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

・〔　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部②の理由として最も適当なものを選べ。〈7点〉

ア　天罰が下るような場所で父の卿が成通に蹴鞠をさせたことに、情け容赦ないことと哀れんだから。

イ　大きな舞台でも素晴らしい蹴鞠をする成通の技術に、我が目を疑うほど圧倒されたから。

ウ　常人では到底できない蹴鞠をし続けている成通に感嘆し、集中力をいではならないと思ったから。

エ　命を失うような危険な場所で成通が蹴鞠をしたことに、顔色が変わるほど驚いたから。

〔　　　〕

問六　本文における成通の説明として最も適当なものを選べ。〈6点〉

ア　人々を喜ばせると同時に自分も楽しんでいる。

イ　蹴鞠の技術を鼻に掛けて観衆をからかっている。

ウ　周囲の人々に迷惑をかけることを面白がっている。

エ　人並み外れた蹴鞠の技術に得意になっている。

〔　　　〕

問七　次の【資料】は、が蹴鞠について書いた『成通卿日記』の一節である。また、【資料】の後の会話は、本文と【資料】とを比較して、生徒たちが話し合ったものである。これを読んで、後の問いに答えよ。

【資料】

一　我鞠を好みしこと

　日を欠かさざること二千日なり。その間、病気の時はしながら鞠を足に当てき。大雨さかりなりしには、へ行きて上げき。かやうに好む人は昔も今も誰かありし。大方鞠の庭に立つこと、日を数ふれば七千日なり。その外、家の内に小鞠に上ぐること時を嫌はず。月の夜、に及ばず。、灯台の火の光にても稽古をせしかば、人憎みそしりあひたり。

（注）　大極殿＝天皇が政務をとったり儀式を行ったりする、宮中で重要な場所。

　　　　立明＝たいまつ。　　灯台＝照明器具。

生徒Ａ―本文からも【資料】からも、成通卿は人々の想像を超えた行動をしているね。その成通について、人々は本文の清水寺の場面では「［　Ⅰ　］ 」という反応を、【資料】では「［　Ⅱ　］ 」という反応をしているよね。

生徒Ｂ―清水寺では、どうしてこんな芸当ができたんだろう。

生徒Ａ―【資料】では、成通のした稽古の内容が本人の手で書かれてあるね。病気の時でも［　Ⅲ　］ながら、また雨の日には［　Ⅳ　］で鞠を蹴っている。七千日も稽古をしているね。そこまで稽古をすれば鞠を自由自在に操れるようになるということなんだ。

生徒Ｂ―でも、［　Ⅴ　］成通の行為が［　Ⅱ　］という人々の反応を生んだんだね。

⑴空欄Ⅰ・Ⅱに入る言葉として適当なものをそれぞれ選べ。〈2点×2〉

ア　批判　　イ　称賛　　ウ　驚嘆　　エ　後悔

Ⅰ〔　　　〕　Ⅱ〔　　　〕

⑵空欄Ⅲ・Ⅳに入る言葉を【資料】から抜き出し、それぞれ答えよ。〈2点×2〉

Ⅲ〔　　　　　　　　　　〕　Ⅳ〔　　　　　　　　　　〕

⑶空欄Ⅴに入る言葉として最も適当なものを選べ。〈3点〉

ア　月さえ出ていれば、鞠がほとんど見えない真夜中まで稽古をした

イ　火を灯した明るい中で、大騒ぎしながら稽古をした

ウ　時や場所を気にせず、夜中に火を灯してまで稽古をした

エ　本来屋外でするべきなのに、いつも家の中で稽古をした

〔　　　〕

【解答】

問一　小鞠／肩／頭／高欄／鞠

問二　㋐＝ア　㋑＝ウ〈3点×2〉

問三　〈2点×4〉

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ⓓ | ⓒ | ⓑ | ⓐ | 基本形 |
| （見） | （蹴） | （着） | （居） | 語幹 |
| み | け | き | ゐ | 未然形 |
| み | け | き | ゐ | 連用形 |
| みる | ける | きる | ゐる | 終止形 |
| みる | ける | きる | ゐる | 連体形 |
| みれ | けれ | きれ | ゐれ | 已然形 |
| みよ | けよ | きよ | ゐよ | 命令形 |
| マ行上一段活用 | カ行下一段活用 | カ行上一段活用 | ワ行上一段活用 | 活用の行・種類 |

問四

1. ア〈4点〉
2. ・鷹を手に据ゑたるほど（10字）〈4点×2〉

　　・平笠を着たるほど（8字）

問五　エ〈7点〉

問六　エ〈6点〉

問七　(1)　Ⅰ＝ウ　Ⅱ＝ア〈2点×2〉

(2)　Ⅲ＝臥し　Ⅳ＝大極殿〈2点×2〉

(3)　ウ〈3点〉

【現代語訳】

（成通が）侍七、八人を並べて座らせて、端に座っている者から順に肩を踏んで、くつをはいたまま小鞠を蹴りなさった。その中に法師が一人いたのを、肩からそのまま頭を踏んでお通りになった。（成通が）このようにすることが一、二回終わって、鞠を手に取って、「どのような感じであったか」とお尋ねになったところ、「肩におくつが当たりますとは感じられません。鷹を手に据えた程度に感じられました」とそれぞれが申し上げた。法師はまた、「平笠を身につけた程度の感じでございました」と申し上げた。

また、（成通が）父の卿に連れ立って、清水寺にこもりなさっていた時、「舞台の手すり（の上）を、くつをはいたまま、渡りながら鞠を蹴ろう」と思う気持ちが生じて、すぐさま西から東へ蹴って渡った。再び折り返し西の方へ戻りなさったので、見る者は目を驚かせ、顔色を失った。

【資料】現代語訳

一　私が蹴鞠を好んだこと

（稽古の）日を欠かさないこと二千日である。その間、病気の時は寝転びながら鞠を足に当てた。大雨がたいそう降った時には、大極殿に行って（鞠を）上げた。このように（蹴鞠を）好む人は昔も今も誰かいただろうか、いやいない。大体鞠の庭に立つこと、日を数えると七千日である。そのほか、家の中で小鞠を上げることは時を問題としない。月の夜は、言うまでもない。たいまつ、灯台の火の光でも稽古をしたので、人は（成通を）憎みそしりあった。

【補充問題】

問１　「かくすること」（２〜３行目）の指す内容を説明したものとして、最も適当なものを選べ。

ア　侍と法師とが、沓をはいたまま交互に順番を代えて鞠を蹴り合ったこと。

イ　法師が、沓をはいたまま鞠を蹴りながら、侍の肩や頭を一人ひとり踏ん

でいったこと。

ウ　成通が、侍の肩や法師の頭などを踏みながら、沓をはいたまま鞠を蹴っ

ていたこと。

エ　沓をはいたまま並んで鞠を蹴っている侍の中にいた法師が、侍のまねをしたこと。

問２　「渡りつつ鞠を蹴ん」（６～７行目）の現代語訳として最も適当なものを選べ。

ア　渡っては鞠を蹴るのだろう

イ　渡りながら鞠を蹴ろう

ウ　渡ると鞠を蹴ってはならない

エ　渡ったうえで鞠を蹴ることはできない

問３　「色」（８行目）の解釈として最も適当なものを選べ。

ア　清水寺という大きな舞台の風情。

イ　成通親子の互いを想い合う情愛。

ウ　自分を誇らしく思う成通の感情。

エ　成通の技を見ている観衆の表情。

【補充問題解答】

問１　ウ

問２　イ

問３　エ